

随想

基本の重要性

「慣れからくる『安易な判断』に注意。初心に帰りの確な判断を」

(株)P P Q C 研究所 加藤 宏光

昨日の夜たまたまテレビをつけたところ、テレビ朝日『報道ステーション』で松岡修造氏によるスポーツ特集が報道されていた。今回、大活躍の『伊藤美誠選手の特集』であった。

伊藤美誠選手（一八歳）は静岡県磐田市生まれの女子高校生卓球選手で、二歳で初めてラケットを握り、四歳で全日本卓球選手権バングビの部で優勝して、その天才ぶりを示した。

二〇一一年一月に一〇歳二か月で全国卓球選手権において初勝利（福原愛の持つ記録を破る）、一〇歳一〇か月でカデットシングルズ優勝（最年少）。それ以降数々の記録で世間の目を引いてきている。

二〇一六年八月のリオデジャ

ネイロ五輪では福原愛、石川佳純と共に女子団体に出場、準決勝でドイツに敗れて二大会連続の銀メダルを逃した。三位決定戦のシングルポール戦では第四試合で馮天薇（世界ランク四位）をストレートで破り銅メダル獲得を決めた。一五歳三〇〇日でのメダル獲得は郭躍（中国）の一六歳三四日を上回り史上最年少記録。

九月、磐田市長より市民栄誉賞が贈られ、十一月のオーストリアオープンではワールドツアーシングルズ三勝目を挙げた。

十二月に世界ジュニア卓球選手権の女子団体では、決勝の中国戦で二勝を挙げる等、出場したすべての試合で勝利する活躍を見せチームを六年ぶりの優勝へと導いた。

その伊藤美誠は、リオデジャネイロ・オリンピックで銅メダルをとってから、一年間勝てなくなった。

彼女の言葉によれば、「自分の卓球がわからなくなったため、三日間は卓球から離れ、静岡へ帰った。子供ときには、フットワークを徹底的に鍛えた」。

リポーターの松岡修造氏は笑いながら応える。

「卓球から離れるといえは、三か月、六か月あるいは長ければ一年と思っただけです。たつた三日間離れただけでいいか？」

「彼女が卓球を離れた」と言ったときには、松岡氏の思ったの

と同様に、数か月は卓球を離れたのだろう、と想像した。しかし、彼女にとつての三日間は、われわれが思う数か月にも相当する期間なのであろう。

その短期間卓球から離れた彼女は次の事柄に気付いたという。彼女は幼い時から、厳しくフットワークを鍛えられてきた。

ビデオで紹介される（多分四歳程度の）幼い彼女が、コーチの右左に打ち分ける球を必死に追いかけていた。このような地道な基礎技術を幼いころから鍛え上げていたからこそ、彼女の比類ない強さが磨かれたのである。しかし、彼女は先の三日間卓球から離れている間に、基礎をおろそかにしている自分に気付いた。

（美誠選手いわく）基礎《フットワーク》ができるようになる、技術に走る。技術にのめって、（あれほど鍛えていたはずの）基礎ができなくなっている。そこで、幼いころから大事にしていた基本に立ち戻ろう。そして、基本に立ち戻ったことで、自分本来の《変幻自在の個性》が戻った。

松岡氏の話。「勝てないときに、基本に戻ることは難しい。すでにマスターしているはずのことだから：何とか壁を破ろうとして、泥沼に入り込み、さらに壁を高くしてしまうのが普通なのに、そこで基本に立ち戻れることこそが美誠選手の強さである」

今の自分を自己評価して美誠選手が語った。

「今は、相手がどのような対応し、どんなボールが来るかわからない。それなのに、そのボールに自然に対応できる。人は東京オリンピックのときにピークになるのが最良。今絶好調は少し早すぎる……と言う。しか

し、自分は今を大事にしたい。今、相手（中国の一流選手のこと）に勝てば、それを励みに相手も強くなり、それに対決する自分もさらに強くなれる。」

まだ一八歳の選手の言葉である。一流であることは《人間としての完成》を意味するのか!? 昨日優勝インタビューで答えていた《張本智和選手》も、フィギュアスケートの《羽生結弦選手》も、同じように大人が聞いてもうなずき感心させられる言葉を語る。

著者はいまだに、フィールドへ入っている。わからぬことばかりが多いフィールドで、常に答を二ワトリに問い続けている。

著者が二ワトリ（養鶏と鶏病）に携わったのは二三歳の時にさかのぼる。爾来五〇年を超えるが、いまだにわからぬことが多い。

過日、巡回した農場で死亡鶏が数羽発生していた。解剖した結果では肉眼的には何らの所見が認められない。このような場合に、その現場がいつも巡回す

る農場で、鶏群履歴も残されておられ、また《現場慣れ》してしまつたと《日付、LOT××、死亡鶏×羽、特筆すべき所見なし》との記録で済ませてしまいがちである。

たまたま、一緒に巡回していた新人獣医師に次のように教えた。

◆《死亡》とは最も極端な症状である

◆剖検で肉眼所見がないことで死亡は無視されるべきではない

◆では、死因の可能性は何が疑われるか？

◆それを類推するためには

①日齢確認

②過去の履歴、とくに過去二三週間に変わったことはないか？

③ワクチネーション履歴の確認
④環境に異常はないか（温度、換気等）、摂食量、飲水量に変

化はないか？
⑤温度変化は？
⑥体のコンディションは（体重履歴と現状、骨の異常、臓器のサイズ等）？
⑦群全体に異常はないか（密度、喧噪性、異常症状）？
⑧他の群に類似のもしくは異なつた状況は観察されないか？

等々を確認することである。

《死亡する》という最も極端な症状について、肉眼という《ラフ》な検査方法で異常を認めないだけで《全体に異常なし》と判断することの怖さを、著者は何度か経験している。

しかし、何事もなく何年も経過するとその事象に慣れ、つい《異常なし》と安易に判断してしまう。

初心に帰り《基礎を大事にすること》を一八歳の選手に学んだ。先生はどこにでもいる。改めて実感させられた報道であつた。